

18年一級河川水質調査結果



国土交通省は、平成 18 年の全国一級河川 109 水系や湖沼計 1,117 地点で行った水質調査結果をとりまとめ、平成 19 年 8 月 21 日に発表しました。

一級河川(湖沼及び海域を含む)において、BOD(生物化学的酸素要求量)または COD(化学的酸素要求量)の環境基準を満足している地点の割合が 87%(881地点/1,007地点)にのぼり、過去最高だった平成 15 年~17 年の 88%と同程度を維持したことが明らかになりました。又、調査地点のうち、サケやアユが生息出来る良好な水質(BOD75%が 3.0mg/l以下)を満足している河川の割合は平成 17 年と同程度の 92.6%(852 地点/920 地点)でした。

BOD 値による河川平均水質が上位だったのは、北海道の尻別川、後志利別川(しりべしとしべつがわ)、鷗川(むかわ)等9河川で平均値はいずれも 0.5mg/l。一方、ワースト 3 となったのは近畿の大和川(BOD平均値:4.7mg/l)、関東の綾瀬川(同:4.6mg/l)、鶴見川(同:4.3mg/l)でしたが、BOD値の 10 年間の改善幅で見ると、1L あたり 5.1mg 減の綾瀬川、4.8mg 減の大和川、3.4mg 減の鶴見川はいずれも水質改善状況によるランキングの上位3位でした。

その他、河川、湖沼等(湖沼、海域及びダム貯水池)の調査地点(988 地点)における糞便性大腸菌群数について、人と川のふれあいの観点から、水浴場判定基準(環境省)により判定したところ、遊泳が「適」及び「可」を合わせると 80.2%となり、平成 17 年度を 2.6 ポイント下回りました。

*「適」:100 個/100ml 以下、「可」:101~1,000 個/100ml

また、ダイオキシン類については調査地点の約98%が、環境基準(1.0pg-TEQ/l)を満足しており、そのうち約 94%が要監視濃度(環境基準の 1/2)以下でした。

また、国土交通省では河川を多様な視点で総合的に評価するため、「今後の河川水質管理の指標について(案)」を平成 17 年 3 月にとりまとめ、平成 18 年から全ての一級河川を対象に本格的に実施しております。

当社ではBOD、CODを中心とした生活環境項目の分析について多くの実績と経験があります。ご不明な点がございましたら、お気軽にお問い合わせ下さい。

資料 2007 年 8 月 30 日付 EIC ネット、国土交通省資料

水質分析箇所 清水いより